

高津地区ドッジボール大会規則

- 第1条 チームの構成は内野手6名外野手6名の計12名とし、補欠は3名以内とする。最低8名でも出場できるがその場合でも内野手6名とする。
- 第2条 競技者は体操着、運動靴等運動できる服装のこと。元外野手は帽子またはハチ巻きをすること
- 第3条 コートの大きさは高学年24mと15m、低学年は20mと12mの区画線に囲まれたものとする。この区画線を外野ラインと呼ぶ。
- 第4条 外野ラインの内側3m（低学年は2m）の位置に区画線を設ける。この区画線を内野ラインと呼ぶ
- 第5条 コートはセンターラインで2等分する。センターラインの中央に直径1.5mのセンターサークルを設ける。
- 第6条 競技は次の審判員によって運営される。
主審1名、副審1名、計時員1名、状況により線審をおくことができる。
- 第7条 ①主審は競技を監督し、進行させ、その最終判定を行う。
②主審は競技の開始から終了まで全ての審判員及び競技者を指示できる。
③主審は規則に明示されていない一切の問題を解決する権限をもっている。
④主審はセンターラインの一方の内野ラインの上に位置する。
- 第8条 副審は主審に相對して、コートの反対側に位置し、主審の補助者となる。
- 第9条 計時員は規定により競技時間、競技停止時間を計る。
- 第10条 線審は主審を補佐し定められたラインを監視する。
- 第11条 ①試合は3セットマッチ制とし、1セットの競技時間は5分とする。
②各セットの勝敗はセット終了時に内野手の多いチームを勝ちとする。
③5分間で勝敗がつかない場合は時間無制限で延長戦を行い、最初にアウトになったチームの負けとする。（サドンデス方式）
④試合は2つのセットを先取したチームの勝ちとする。
- 第12条 コートの選択はジャンケンによる。第2セット以降はセット毎にコートを交代する。
- 第13条 ロスタイムは計らないが、けが人、長時間のボールデッド等主審が必要と認めた場合はレフリースタイルアウトを取ることができる。
- 第14条 各セット間には2分間以内の競技停止時間がゆるされる。
- 第15条 ①サービスボールは副審により両チームの代表者間でセンターサークル内でのジャンプトスによる。競技の開始は主審の笛により始める。
②ジャンプトスのボールが内野手に触れることなく外野手が直接保持、またはボールデッドとなった場合は再度ジャンプトスを行う。
- 第16条 競技者の交代は各セット間とする。
- 第17条 相手方競技者によって投げられたボールが内野手に触れた後、味方内野手に保持されず、床その他に触れた場合最初に触れた内野手はアウトになる。
- 第18条 相手方競技者より投げられたボールが直接首から上に当たった場合はすべてセーフとする。
- 第19条 内野手は内野ライン及びセンターラインに触れてボールを保持してはならない。

第 20 条 アウトになった内野手は外野へ回り、外野で相手の内野手をアウトにすれば、内野にもどれる。ただし内野にもどる場合はただちに入らなければ認めない。

第 21 条 外野手（元外野手）が相手の内野手をアウトにしても内野へ回れない。

第 22 条 1 チームによる 1 度のボール保持はパス 4 回以内とする。ただし相手内野手をアウトにする目的で投げられたボールはパスとならない。

第 23 条 1 競技者のボール保持時間は 10 秒以内とする。

第 24 条 競技者は内野ライン及びセンターラインを触れてボールを投げてはならない。投げ終わった後のラインの踏み越えは認める。

第 25 条 競技者によって投げられたボールが外野ラインを越えた場合は最後に通過した内野ライン側の内野ボールとなる。ただし、外野競技者の投げたボールが自チームの内野を通過して外野ラインを越えた場合は、相手方の内野ボールとなる。

第 26 条 競技者は故意にボールを外野ライン外に出してはならない。

第 27 条 外野手は内野ラインを触れてボールに触れてはならない。

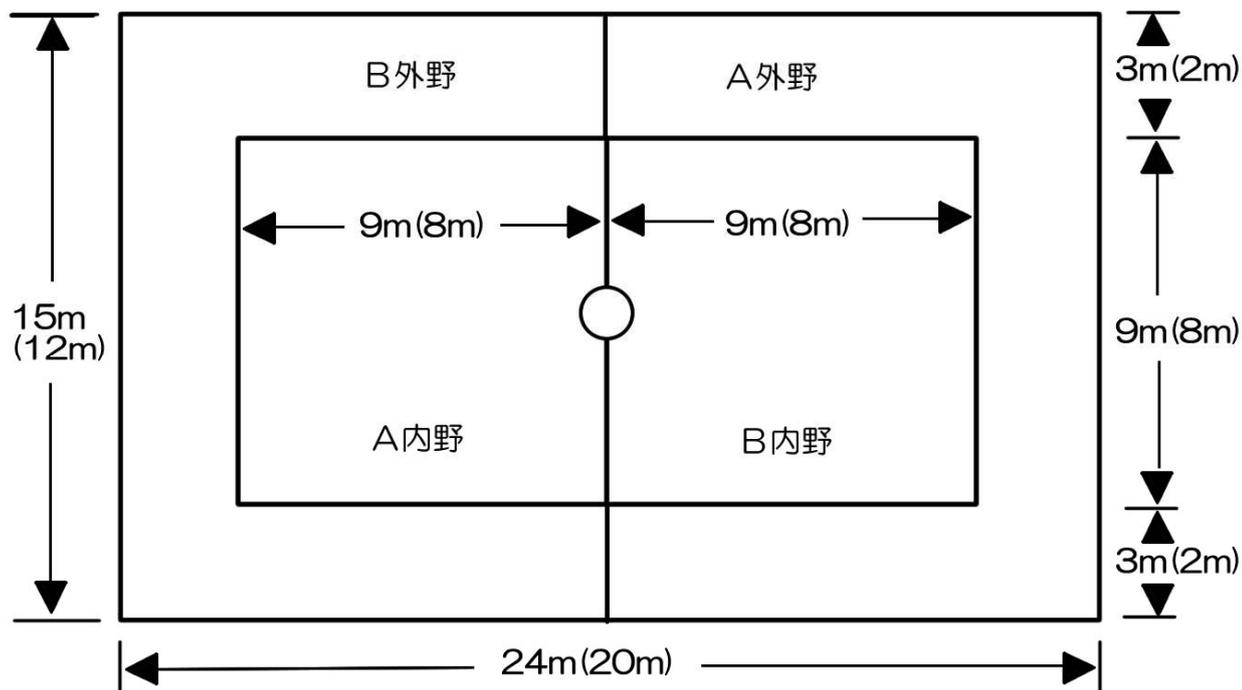
第 28 条 次の場合のボールは内野ボールとなる。

①味方内野手が第 17 条によりアウトになった場合。

②相手方競技者が第 19 条、22 条、23 条、24 条、26 条、27 条に違反した場合。

第 29 条 競技者及び関係者は故意に試合の進行を妨げてはならない。

第 30 条 試合用のボールは教育用 2 号を使用する



() 内は低学年用コート